

開創七周年記念法会

★日 時：令和元年 12 月 1 日（日）
11 時～12 時(10 時半から受付)

★場 所：津観音寺 津市大門 32-19
059-225-4013

当日は駐車場がありませんので、公共交通機関又は近くの有料駐車場をご利用ください。当日の祈願受付は11時までとさせていただきます。

参加費：ご志納 お一人 1,000 円
食事券(限定 150 食)・記念品をお渡しします。



開創6周年記念祭 結城神社にて

寺社ちょっといい話

■「七福神とSDGsの精神性」

四天王寺 住職 倉島隆行

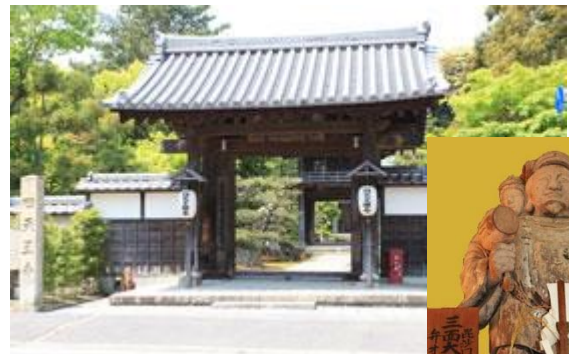


巡りと相まって、新たな

人々との交流の場として賑わっております。

先代や事務局の皆さまが発願された「津市の活性化」という文化振興における寺社ネットワークは単なる観光促進だけではなく、互いの信仰を敬い古来

四天王寺先代の倉島昌行老師より伊勢の津七福神の活動は、便りを通して拝見しておりました。三面大黒天をお祀りする当山は、発会当時より参拝者が増え、近年の御朱印



塔世山四天王寺



三面大黒様

より日本人の基層精神として培われてきた「神仏習合の祈り」として人々の心に安寧を与えているようにも感じられます。宝船に乗る個性ある神々は神道だけではなく、それぞれにヒンドゥー教・道教・仏教の背景を持ち、人々を救うために協力して手を差し伸べるお姿は「誰一人取り残さない」という国連が2030年までの世界規模の目標であるSDGsの精神と重なります。

(※Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標の略称・エス・ディー・ジーズ)

人権や環境問題、将来の子どもたちの為に出来る地域の取り組みなど、SDGsは17のゴールに向かって具体的な行動が求められています。

その中で伊勢の津七福神の取り組みは「住み続けられるまちづくりを」と「パートナーシップで目標を達成しよう」という取り組みに寄与していると思われれます。そして、伊勢の津七福神の宝船が美しい伊勢湾を航海出来るのは、支えていただいている西田久光氏や事務局の皆様のお陰であります。

先代は日頃から経典の一節である「潜行密用は愚の如く魯の如し」を引用しお話されておりました。大切なことは人知れず行うことで、それは愚（おろかも）と思われてしまうようなことも多い。そしてこのお経は「只よく、相続するを主中の主と名づく」と結ばれます。続けていくことが大切であると。

皆様との七福神を通じて結ばれた尊いご縁が、末永く続きますことを祈念しております。

■「儲け話」

飯処しるべ 佐久間将之

失って初めて気付く大切なもの。大切なものを失いかけた有難い話です。

それはもうすぐ終業式を迎えようとする三月中旬の出来事。二十数名の宴会準備が終わる夕方四時過ぎ、息子から「今蒼介が車にはねられてドクターヘリで救急救命センターに運ばれた。意識不明。どうしよう・・・」と泣きながら電話があった。

僕も女房も不安な心の中、何とか宴会を終え、すぐに孫の様子を見に岐阜大学病院の救急救命センターに向かった。

「蒼介、蒼介、おじいちゃんだよ。」何度も孫の名前を呼ぶが目を開けるどころか頷くこともない。車にはねられた右側の頭部から顔は厚手のガーゼに包帯。二倍以上に膨れ上がった孫の顔を見て、体中の涙になる水分が枯れるほど泣いた。

先生は冷静な声で「一週間様子を見て、状態に変化がなければ次のことを考えましょう。」と。険しい顔で話す。全てを先生に委ねるしかない無力の僕の頭の中は、どうして、どうして何も悪くない蒼介がこんな事に。般若心経が回想した。意識不明から五日目、津観音のご住職にお願いをして御祈祷いただきお札を授かったのがその日の十時三十分でした。女房に「このお札と七福神の御朱印帳を持って今夜蒼介に会いに行こう。」と。ランチが一段落ついた二時過ぎ、「蒼介が目を覚ましたよ。」と。

二人で抱き合って大喜び。三時に店を閉めると浮き足立つ思いで岐阜に行きました。その後先生から今朝十時三十分意識が戻った事を聞いてビックリ。御祈祷が終わりお札を授かった時間。後遺症もなく、元気な四年生として生活をしている孫に尽力をいただいた先生は「奇跡ですよ。あんな大きな事故で、命が助かるだけでも奇跡なのに。何も無かった姿に。」と。この話を聞いた時、四天王寺の東堂さんから頂いた言葉を思い出しました。

「儲けとは信じる者と読む。信仰するものが儲かる。」全く、儲けました。



■『伊勢の津七福神と伴に歩んだ七年間』

四天王寺手芸部 林恵美子

伊勢の津七福神が開創されてから、早くも満七周年を迎えられること、誠におめでとうございます。

私達四天王寺手芸部も伊勢の津七福神と伴に歩みを進めてまいりました。思い起こせば、私達の活動は、四天王寺老師倉島東堂様から「伊勢の津七福神にお参りいただいた方への記念になるものを何か作れないものだろうか?」とのお言葉を、当時の手芸部同好会に声をかけていただいたのがきっかけでした。

ちょうど梅のほころぶ頃でしたので、紅白のちりめん地を使い「梅ストラップ」を作りましたところ、大変ご好評をいただきまして、では次回も・・・ということで、「四天王寺手芸部」と名を改め、伊勢の津七福神の行事毎に手作り品を出品することとなりました。

当時は、伊勢の津七福神の開創から間もない頃でしたから、資金面で少しでもお役に立てればという思いもございました。材料費の節約のために、それぞれの家のタンスに眠っていた着物類をたくさんの方からご提供をいただき、それらを使って巾着袋おひなさま、お数珠入れなど多種多様な小物を作ってまいりました。また四天王寺八の会をはじめとし、霊場会、その他関係者の皆様には、販売や購入の面で多大なるご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。

今では四天王寺本堂内入口に手芸品販売コーナーを作っただけ、常時手に取ってご覧いただけるように陳列・販売しております。今後もより精進し、手芸の腕を上げ、伊勢の津七福神行事の時には、おそばに「可愛い小物」を並べることで、微力ながらお手伝いさせいただければ幸いです。末筆になりましたが、伊勢の津七福神の今後の更なるご発展をお祈り申し上げます。



満願成就された方への記念の品

満願された寺社様の七福神の水晶玉が入ったストラップを進呈いたします。7つ集めてみませんか？

白 色：円光寺 うす紫：高山神社
こい紫：安楽寺 もも色：結城神社
だいたい色：初馬寺 うす黄色：津観音寺
明るい緑：四天王寺



雁行案内

2019年11月20日（水）小雨決行

四天王寺 9時半集合

会費：1,000円（志納・昼食代）

問い合わせ：090-1624-8147

行先：観音寺、高山神社



伊勢の津七福神 友の会ご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して7年が経とうとしています。

巡拝の方も4,000名（10月末）を越えました。

今200名の友の会会員の皆様のご協力のもと、この先も歩みを進めて行きたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てみませんか。

会員の方には年3回、友の会便りが届きます。特典もございます。（別紙）

会 費：1,000円/年間 金融機関：郵便局

郵便振替口座：00820-8-123136 口座名義：伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電 話：059-225-8558

URL：http://isenotsu7fukujin.



発行：伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

3

編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。

12月1日、観音さんでお待ちしています。

池上 kanon@nifty.com